

「大分市総合計画」「大分市総合戦略」「大分市人口ビジョン」の案についての市民意見公募(パブリックコメント)において寄せられた意見【集計速報】

◆ H28.1.15～H28.2.15実施

◆ 提出意見者数

総数 33人

(内訳: メール 22人 持参 10人 FAX 1人)

◆ 意見の内訳と件数

1. 総合計画、総合戦略、人口ビジョンに共通する意見	1 件
2. 総合計画に係る意見	51 件
(1) 基本構想について	4 件
(2) 基本計画総論について	1 件
(3) 基本計画各論について	46 件
「第1部 市民福祉の向上」に関するもの	10 件
「第2部 教育・文化の振興」に関するもの	9 件
「第3部 防災安全の確保」に関するもの	3 件
「第4部 産業の振興」に関するもの	19 件
「第5部 都市基盤の形成」に関するもの	2 件
「第6部 環境の保全」に関するもの	3 件
3. 総合戦略に係る意見	13 件
4. 人口ビジョンに係る意見	2 件
計	67 件

大分市総合計画、大分市総合戦略、大分市人口ビジョンの案へのパブリックコメント

1. 総合計画、総合戦略、人口ビジョンに共通する意見

No.	意見の要旨
1	大分県全体への波及効果を意識した取り組みをお願いしたい。大分市だけがひとり勝ちしても、他の自治体が低迷し、大分県全体が地盤沈下しては意味がない。大分県内の自治体との連携を強化し、最大限の効果を期待したい。

2. 総合計画に係る意見

(1) 基本構想について

第2 基本構想の期間

No.	意見の要旨
1	基本構想の期間について、2024年までの9年ではなく、2025年までの10年とする方が区切りとして妥当ではないか。

第5 構想の前提となる都市の枠組み

No.	意見の要旨
1	「本市の担うべき地位と果たすべき役割」については、九州の中核都市、県都、大分県における先導的な役割など、的確に記述されていると所感する。

第6 めざすまちの姿(都市像)

No.	意見の要旨
1	今後はこれまでのような経済的豊かさ、物質的豊かさではなく、心の豊かさ、幸福のようなものを追求していくべきだと考える。 例えば、インフラであれば、道路を新しく造る、広げるということではなく、既存の道路歩道を広げる、自転車レーンを造ることで道路の質を上げるといったことが大事になる。また、例えば、鉄道残存敷きなどは時間消費を楽しめる空間なるとよいと思う。 大分市がめざす大きな方向性として、量ではなく質を上げる、心の豊かさ、幸福度の向上のようなものを掲げ、そのような取り組みの優先順位を上げて実施してはどうかと考える。

第7 基本的な政策

No.	意見の要旨
1	6項目目「自然と共生する潤い豊かなまちづくり(環境の保全)」の記述について、「地球的規模の環境問題に取り組む」旨の記述の優先度が後方になっていますが、地球温暖化の現実及び2030年までにすべきことを思慮した場合、この記述は、他の記述の重さとし、先頭の位置に記述されるべきと考える。 また「地球的規模の環境問題」というあいまいな表現を「地球温暖化」を明確に表現することが適切である。 さらに、市民への啓発を掲げているが、市民の「地球温暖化への意識変革・喚起」のためには、明確な言い回しが必要だと考える。

(2) 基本計画総論について

第6章 計画推進の基本姿勢

No.	意見の要旨
1	大分市のまちづくりのいろんな分野で、いろんな団体と連携していけばよいと思う。おそらく市のために活動をしたいという団体も多いと思う。

(3)基本計画各論について

第1部 市民福祉の向上

第1章 第1節 地域福祉の推進

No.	意見の要旨
1	定着率の低い保育・介護の職場で働く人々の待遇改善が求められる。そのためには、強い公的指導・公的資金の導入、各施設の公立化等を行う必要がある。現状、ソフト面での充実が図られておらず、従業員もサービスを受ける側も十分に満足のものではないケースも見受けられる。業界全体の職場環境・イメージの向上を図り、同時に職員のスキルアップを行い、多くの有能な人材を集め人手不足を解消していくことは、大分市の重要な課題である。

第1章 第2節 子ども・子育て支援の充実

No.	意見の要旨
1	幼稚園(認定こども園)の「一時預かり」の利用料金について、全ての幼稚園(認定こども園)で出来るだけ安く、一律の金額になるよう設定してほしい。
2	認可保育所の一時預かり制度について、利用方法や利用料金について、使い勝手がよくなるよう検討してもらいたい。
3	子どもの医療費助成について、中学生まで無料になるよう、大分市でも検討してもらいたい。
4	子育て支援の強化のため、子どもの医療費の補助制度の拡充が必要。
5	児童手当を給食費や体操着の配布等学校生活に必要な経費に直接当てる方が子育て支援対策になると思う。
6	病児保育の充実が図れると共働き夫婦が安心して仕事と子育ての両立が出来ると思う。

第1章 第4節 障がい者(児)福祉の充実

No.	意見の要旨
1	大分市内で障がいのある方のリハビリに特化した施設の充実をはかっていただきたい。

第4章 地域コミュニティの活性化

No.	意見の要旨
1	地域で活動をしていると、本当に数多くの団体さんがいることが分かる。そして公的な活動をしていたり、活動をすることをいとわない方々ばかりだと感じている。
2	現在各支所は交流プラザ的な機能を有する市民センター、市民行政センターとなっているが、出張所や連絡所にはその機能はないので、支所へ格上げしてほしい。 さらに、機能を拡充し、高齢者層、青・壮年層、年少層、それぞれの世代の生活をサポートしつつ、同世代間及び世代を超えた交流を促進する、(仮称)多世代交流プラザを各地区に設置し、新しいコミュニティづくりのエンジンとすることが望まれる。

第2部 教育・文化の振興

第1章 第1節 生きる力をはぐくむ学校教育の充実

No.	意見の要旨
1	道幅が狭く、車両と子どもたちが同時に行き来する通学路では、時折、車と児童が接触しそうな危ない場面を見る。大分市の未来を築く児童たちをきちんと保護する道路行政に期待する。 そこで、通学路を使う児童及びその保護者へ、その通学路に対する意見調査を行い、また、その調査による道路の通学時間帯での危険度調査(3現主義(現場・現象・現実))により現場直視、紙上での空論はしない)及びハザードポイントの抽出と定期的安全教育を実施したり、さらに必要に応じて、ハード面の対策、拡幅工事を行うことを提案する。
2	子どもを小学校に通わせているが、塾に行っている子どもがものすごく多い。先生たちも塾の先生に負けにくい工夫した、子ども達を惹きつけるような授業をしてもらいたい。
3	子どものコミュニケーション能力、問題解決能力の育成のために、テーマは何でもよいので、例えば、大規模災害を想定した場合の情報収集・分析・対策といった一連の作業を実践的にやっていくような授業の導入を検討してはどうか。
4	ITに関する授業を導入すべきである。特にセキュリティー対策は重要であり、ウイルスに関する知識、ウイルスに感染しないための対策や、もし感染した時の対応、悪質なサイト等の情報の周知などの授業を取り入れることが必要。
5	子どもへの食に関する教育のために、学校の調理実習で「生の魚をさばく」など、親子で参加する授業をやってはどうか。また、消化器官のしくみ、栄養学、漁場や漁法、資源管理といったことも含め親子で取り組めるような授業を実践してはどうかと思う。
6	国土交通白書、水産白書、防衛白書、大分市の総合計画といった資料を用い、国や市の現状と課題、将来の展望について各分野での取り組みを知ってもらい授業を実践してはどうだろうか。
7	通学路の安全確保について、私の住む校区の通学路は狭隘な箇所が多く、交通規制もないため非常に危険である。登校時間帯は規制をかけるなど、何らかの対策が必要。 また、中央分離帯の植樹等で見通しが悪い箇所があり危険であり、これら危険個所の点検・対策をお願いしたい。

第2章 個性豊かな文化・芸術の創造と発信

No.	意見の要旨
1	「創造都市」「東京五輪に向けた文化プログラム」の推進及び「成長が期待される産業や都市型産業」の例として「クリエイティブ産業」を、新総合計画・総合戦略に明記すべきと考える。 「創造都市」「文化プログラム」の推進は、地方創生が求められる時代にあって、個性豊かでひとや地域が輝く社会に向けたまちづくりを進めるうえで大事な要素であり、その実現のための取組を明確にすることで、時代の要請に対する市の姿勢を市民はもろろん対外的に広くアピールすべき。 また、「クリエイティブ産業」は一般的に都市型産業であり、県の産業振興政策とも有機的な連携が期待できる。 県都大分からの地方創生のイノベーションを起こすために、「創造都市大分」の推進に向けた取組を積極的に進めていただきたい。

第4章 国際化の推進

No.	意見の要旨
1	国際化の推進の指標(目標設定)に「ホームステイ受入れ家族数」を加え、「ホームステイ受入れ家族数 日本一！」をキャッチフレーズとして掲げてもらいたい。

第3部 防災安全の確保

第1章 第1節 防災・危機管理体制の確立

No.	意見の要旨
1	<p>東日本大震災直後は、自分自身も防災意識、危機意識みたいなものが強かったが、最近では少し薄れてきている感じがしている。子ども達が学校で防災訓練があったという話を聞いたり、地域の防災訓練などに参加すると、やっぱり「日頃の備えが大事なんだ」と思い返すことがある。防災意識を持ってもらうことはやはり大事だと思うので、行政も市民に意識を持たせるような取り組みをしっかりと行ってもらいたい。</p>
2	<p>防災訓練の参加者は高齢者が多く、子どもや若い世代の参加が少ないので、行政側から子ども会などとの連携を呼び掛けたり、そのような取組を既に行っている地区の事例を広く広報したりすることが必要ではないか。子ども会が関わることで、子どもを介し、その親も参加することが出来ると思う。</p> <p>実際災害が起こった時には、子どもから大人、高齢者まで、あらゆる世代が助け合うことが必要となるので、訓練の時からその協力体制をつくっておく必要がある。また、そのような防災訓練は、地域コミュニティの活性化にもつながると思う。</p>
3	<p>大分県下にはない、様々な災害模擬体験（地震体験や火災体験、災害学習等）の出来る施設を備えて、常時から災害訓練・模擬体験ができ、有事には避難場所として利用できる複合型防災訓練センターを設置することを要望する。</p> <p>そのことにより、県民・市民が災害訓練・模擬体験等に来市する人が多くなり、にぎわいの創出にもつながる。</p>

第4部 産業の振興

第1章 第1節 工業の振興

No.	意見の要旨
1	大分市は、何といても産業で成り立っている。とりわけ、新産業都市を象徴する大企業や関連企業の業績次第で、大分市の勢いが左右されるといっても過言ではない。したがって、新しい企業誘致なども必要なことはもちろん、大分市に今ある企業の業績の底上げなどの取り組みに、市がどのように関わっていくかということも大事になってくる。
2	現行の大分市融資制度のように、調達コスト面だけを優遇するだけの融資制度で中小企業の競争力は強化するのは難しいのが現実である。そのため、より長期的な金融および経営支援を踏まえた支援制度を積極的に作っていく必要があると考える。
3	中小企業支援施策については、技術力はさほど高くなくても、実現可能性の高さで支援を決める施策を積極的に打ち出してもらいたいと考える。

第1章 第2節 農業の振興

No.	意見の要旨
1	私は、コメ作りに従事しているが、周囲で農業をしているのはお年寄りばかりで、我が家も含め、後継者がいない状況。この後のコメ作り、農地をどうすればいいかという問題が出てきている。将来の大分市の農業の発展にどう取り組んでいくのかが問われている。
2	農地が荒れているところをよく見かけるようになったが、このような農地を使いたい人も多いと思う。特に市街地の中や市街地に近いところにも農地があるので、そのようなところを農地として有効活用する方策を実施してもらいたい。
3	大分県には農産物の分野において、魅力ある「商品(産物)」が数あり、これを外部へ「大分ブランド」としてどんどんアピールすべきと考える。過去においては、一村一品運動が行われ、県外でもその声はよく聞かれていたが、近年は全くその功績も消えつつあるようにある。県としてやるべきことだとは思いますが、市としても、大分の県都としてぜひ他の市町村のきっかけとなるような行動をお願いしたいと思う。
4	佐賀関や野津原地域を体験型宿泊が可能なグリーンツーリズム強化地域として指定し、積極的に取り組んで行くべき。

第1章 第4節 水産業の振興

No.	意見の要旨
1	水産業の振興について、効率的で収益性の高い漁業の確立が必要である。資源状況、市場ニーズ、魚群、海況データ等が連携した漁業の導入といったことを考えてはどうか。

第2章 第1節 商業・サービス業の振興

No.	意見の要旨
1	大分駅高架下を無料駐車場にすることで中心部へ人が集まると思う。

第3章 安定した雇用の確保と勤労者福祉の充実

No.	意見の要旨
1	現状、安心して出産、子育ての出来るような環境ではないと思う。 待機児童の問題はもちろんだが、幼稚園、小学生などの子どもがいる母親が働ける環境をもっと充実させてほしい。土日祝日休み、働ける時間も1日の中で限られるとなると、なかなか雇ってくれるところはない。子どものいる母親を積極的に引き受けてくれる、理解しサポートしてくれる社会になってほしい。 少子化を食い止めるためにも、もっと直接的に実感できる支援、対策をお願いしたい。
2	雇用の増加を図るため、創業の支援強化や高齢者雇用に対する企業への補助金の拡充が必要である。

第4章 魅力ある観光の振興

No.	意見の要旨
1	大分市には、東九州自動車道の開通で、宮崎方面からの買い物客が増えていると聞く。 大分市に来てもらうためには、何を売り出して大分市の魅力を感じてもらおうかというPRが大事になってくると思うし、逆に大分市に住んでいる人が、隣県に行ってしまうことも予想される。 こういう点からまちづくりを考えると、隣県との差別化を図り、「これは大分市にしかないもの」「これが大分市のいいところ」ということを大々的に宣伝して知ってもらおうということが大切だと思う。多くの人に大分に来てもらって、大分市に住んでいる人も誇りにできるような街になっていくといいと思う。
2	観光を促進するため、観光資源の磨き上げ、別府市、由布市からの流動を図るための交通アクセス向上が求められる。
3	東アジア・東南アジア諸国の誘客には現地旅行者(ランドオペレーター)に対するプロモーション(福岡→別府・大分へ引くツアールート)が必要。
4	1週間程度続く祭りやイベントを新規でつくるべきである。その際、博多どんたくや長崎ランタンフェスティバルなど、他県の大きなイベントの時期に併せて大分に呼び込むなど、東北4大祭りのように近隣県と連携したイベントにすることが必要。
5	中心市街地で、商店街や駅ビルが初売り企画で連携したように、まちなかを挙げての連携免税店を構成し翻訳機やガイドを導入し、外国人観光客にとって「買い物しやすい街」をつくる必要がある。
6	外国人観光客が、買物をするだけでなく、「体験する」こと、たとえば美容室、エステサロン、診療等に対応できる体制の整備や指導をおこなうことが必要である。
7	微博(ウェイボー)やトリップアドバイザーといった口コミサイト等に、大分の魅力や旬の情報をその国の出身者に頻繁に書き込んでもらうことで、大分の魅力を広くアピールすることが必要。
8	学会やコンベンションの受け入れを積極的に行うため、市内のホテルや別府市などと連携するなどのアプローチが必要。また福岡市等近隣都市と比較し有利な条件を設定することも必要。

第5部 都市基盤の形成

第1章 第1節 計画的な市街地の形成

No.	意見の要旨
1	<p>私の田舎は、人口も減り、家も減り、農地は作るところが少なくなり絵にかいたような限界集落で、今後はますますこのような状況が進んでいくと思う。</p> <p>コンパクトシティという言葉もあるように、便利な場所に引っ越しすれば解決することもあるが、そう簡単には住み慣れた場所を離れるということとはできない。やはり住み慣れた場所でいつまでも暮らしていけることがいちばん幸せなことではないだろうか。</p> <p>中心市街地が大きく発展する一方で、周辺部や中山間地域でも安心して住み続けることができる大分市であることを望む。</p>

第1章 第2節 交通体系の確立

No.	意見の要旨
1	<p>渋滞緩和のため、公共交通機関の利便性向上や大分駅高架工事の際に実施したパークアンドライドの再開が必要。</p>

第6部 環境の保全

第2章 第4節 地球環境問題への取組

No.	意見の要旨
1	地球温暖化対策については、市だけでなく、私たち市民が日頃の生活から気を付けて、一緒になって進めていかなければならない。例えば、移動するときは公共交通機関を使ったり、近場であれば自転車や歩いて移動するなど、なるべく自動車を使わないようにすることで、CO2削減につながり、地球温暖化対策になると思う。こうした市民の取り組みが進むように、市が後押しするような政策が必要になっている。
2	地球環境問題への取組については、地球温暖化の現実及び2030年までにすべきことを思慮した場合、この記述は、他の記述の重さと比し、第6部第2章第4節ではなく、第2章第1節に繰り上げるべきと考える。
3	地球温暖化問題で、最も重要な施策は、大分市の未来を見据え、大分市を地理的、部門的等で俯瞰した都市計画の視点に立った都市型の適応策、「命を守る施策」が必須である。適応策は、都市計画、農林漁業、防災、沿岸・港湾企業対策、健康、高齢者対応などさまざまな部門との関係が求められる。また中核都市として国・県との人的、資金面などの連携が必須である。 適応策の推進には、長期的・段階的・プロジェクト的な推進が必要であることを総合計画に表明しておかねば、将来に禍根を残すことになる。

3. 総合戦略に係る意見

No.	意見の要旨
1	若者定住に向けた魅力ある街づくりが行われると同時に観光やグルメ等、まだまだ大分市には宝が隠れている。 県都大分市、50万都市に向けて更なる発展、行政に期待している。
2	市街化調整区域の見直しを行い、住宅地域の工業用地域を拡充し、経営者の事業拡充及び雇用の促進、居住の拡充を図る街づくりの姿もあると思う。 工業用地は、大企業向けであり、面積・価格も中小企業には中々手が出せないの で、事業の拡充や起業が柔軟に行える環境を作り出す施策も必要と考える。
3	ホルトホール大分にある「産業活性化プラザ」のアナウンスをもっとすべき。 誘致企業も重要であるが、創業を検討している個人の情報の吸い上げの仕組みをつくるべき。
4	社会で女性が活躍する機会が増えているが、延長保育の時間を伸ばすことで、女性の活躍する機会がさらに増えるのではないかと。
5	転勤等で保育園の転園を希望してもなかなか転園できず不便である。
6	認可保育園に専業主婦の子どもも入園できるようにしてほしい。待機児童を減らし、 不便な環境を変えてほしい。
7	創業による雇用創出に向けては、行政が金融機関等と連携して、積極的に支援して いく必要があるのではないかと。大分市は、産業と雇用において、比較的恵まれた地域であることから、これらをいかし、 県都・大分市をより発展させていただければと思う。
8	大都市圏からの移住を促進するべき。
9	山間部、過疎化地域への活性化策として「移住情報」を「県庁所在地の田舎に住みたい大分市民」に対して積極的に発信するようにしたらいかがだろうか。 例えば、大分市が移住者を積極的に受入したい集落(地区)を募集し、大分市HPに「〇〇集落(地区)は、移住者を積極的に受け入れたいとのこと。問合せは〇〇地区自治委員〇〇さんへ」と掲載すればよいと思う。地区住民の応援があれば安く土地を購入することも出来るはず。
10	今後は、少子高齢化や人口減少がますます進むと思われる。 そうした中では、国が進めている地方創生に大分市でも取り組んでいかなければならないと思う。そのために総合戦略を作成して、大分市独自の戦略を行っていくことは大切なことだと思う。
11	地球温暖化に対する総合戦略的な記述が見つからない。戦略版全体に目を通した時、各部門の未来の目標の記述があるが、地球温暖化の影響とリスクに関する記述、 適応策に関する記載がないため、「地球温暖化への対応」を加筆することが必要。 基本構想、基本計画と整合した「地球温暖化の総合戦略」の記述を求める。

12	<p>「大分市総合戦略」では4つの基本目標を設定しているが、この4つは今後大分市が将来にわたり発展するためのベースになる目標として認識し、すべての施策がこの基本目標にそって制定されなければならない。ただし、優先順位を考え、どの施策から重点的に取り組むのか検討することが重要である。例えば、高校を卒業し、進学時に転出する若者が多いのであれば、大学、専門学校等の誘致により、大分市に転入する若者を増やすことを優先する。また大学と大分の企業が協力し、研究等共同で行い、地元企業に就職する等、転出を防ぐ。このような施策を検討し、優先的に取り組んでみることもひとつの有効な手段であり、地方創生の特効薬になると考える。</p> <p>さらに、効果を検証しながらもチャレンジしていく精神が必要であり、官だけ民だけではなく、官民一体となり、大分市の発展のために、それぞれの施策に取り組んでいくことが、地方創生のかぎになると思う。</p>
13	<p>大分市の人口が出来る限り減らないよう、出来れば増えていくよう、実効性のある総合戦略となるよう期待しているが、4つの基本目標について、もう少し「人口が増える」、あるいは「分かりやすく」といった視点での目標にした方がよいと思う。特に、2つ目の基本目標は、他の3つの基本目標と比べ分かりにくいので、もう一度、検討してもらいたいと思う。</p>

4. 人口ビジョンに係る意見

No.	意見の要旨
1	2060年に45万人程度と見込んでいる大分市の人口について、総合計画や総合戦略の中で、新たな施策や重点的な施策が見えないので、人口減少を食い止める「施策」を明確に打ち出していただきたい。
2	旧佐賀関町、野津原町の人口が減少することは大きな問題であるため、総合計画、総合戦略の中で具体的かつ重点的な施策に取り組むべきである。